



WE ♥ KASHIMA

いいモノ、いい景色
70の鹿島の魅力を探しに

かしまBOOK

CONTENTS

- 3 市制70周年に寄せて。市長からのメッセージ
- 4 数字で見る! 鹿島市エトセトラ!
- 6 いいモノ、いい景色 70の鹿島の魅力を探しに
- 8 笑顔眩しい! 未来をつくる高校生
- 9 温かく優しく。世代をつなぐ保育士
- 12 まちと共に歩んだ面師の道。「浮立面」を彫り70年
- 13 まちと同年。元気な鹿島レディの現在地
- 14 鹿島から世界へ羽ばたくアスリート
- 15 地元の民俗芸能を次世代へ。「一声浮立」を学ぶ子どもたち
- 16 人間国宝の技を継承
- 17 「木版摺更紗」とは?
- 18 ノスタルジー漂う美しい駅舎
- 20 住民がヒーローに。わがまちの消防団
- 22 鹿島市が本拠地。『BrewKASHIMA』
- 23 スポーツの聖地! 『鹿島市陸上競技場』
- 24 走りながらパトロール! 個性豊かなランチーム
- 28 遊んで、癒されて。恵みの干潟で働く
- 30 地元が大好き。同郷夫婦でのり養殖
- 31 Uターンして家業を継いだ若手農家
- 32 搾りたて生乳で作るジェラートも人気! 市内唯一の酪農家
- 33 第二の人生も輝く。脱サラしたサフラン農家
- 38 鹿島市を支える働くオトナ
— 肥前鹿島干潟SDGs推進パートナーの皆さん—
- 40 絶景が待つ鹿島の美しい自然
- 46 レトロな時代にタイムスリップ。情緒あふれる酒蔵通り
- 48 美酒を造る酒蔵の人々
- 52 大自然に抱かれる山深い里へ
- 53 笑顔でお迎え。山の家のお母さん
- 54 都会のデザイナーが里山で農家に。福岡出身の移住夫婦
- 60 鹿島市で賑やかに子育て中! ふたつのファミリー
- 62 まちをもり立てる市民グループ
- 68 再訪するたびに発見がある“古くて新しい”祐徳稲荷神社
- 70 夢のカフェを開店した双子姉妹
- 71 人気カフェレストランを切り盛りする夫婦
- 72 地場野菜でつくる老舗漬物蔵
- 73 地元民のごちそうを作るうなぎ職人
- 78 『地域おこし協力隊』で仙台から鹿島へ
- 79 まちと一緒に成長! 鹿島市役所のフレッシュマン

KASHIMA COLUMN

- 10 01 鹿島市歴史写真館
- 26 02 箱根駅伝を疑似体験! 鹿島市のRUNマップ
- 34 03 鹿島市がSDGs先進都市って知ってた!?
- 50 04 酒造りのまち、鹿島
- 56 05 “ほとめき”のまち、鹿島で楽しむ10の体験
- 64 06 鹿島イベント歳時記
- 74 07 歴史のまち鹿島を散策
- 76 08 鹿島のパワースポットでエナジーチャージ
- 80 09 やっぱコレ! ハズさない鹿島の美味&名品10
- 82 10 かし丸くんの活動報告

back cover

Model: 岩屋美咲 (office color 所属)

※本誌に掲載されている商品価格は消費税込みの総額表示です。

※本誌に掲載されている内容は2024年9月末時点での情報のため、価格や仕様が変更になっている場合や、販売が終了している場合があります。



NAME	OCCUPATION	MY FAVORITE (私のお気に入り、以下同)
松尾勝利さん	鹿島市長	船上で見る有明海から上がる朝日

市制70周年に寄せて。市長からのメッセージ

鹿島市は2024年4月1日に70周年を迎えました。市民として私が好きだと感じるのは、70年の歩みの中でひととひととのつながりが大切に育まれ、今もそのつながりが強く残っているところです。たとえば、「鹿島ガタリンピック」や「鹿島酒蔵ツーリズム[®]」は市民が想いをひとつにして発展を遂げた、今も続く大きなイベントです。緑豊かな山々、海や川の輝く水面、新鮮な食材、これらが当たり前だと思うのは素晴らしいことだと感じています。これからの鹿島市も、いい意味で変わらないでいてほしい。皆さんが当たり前だと思う「食べ物、水がおいしい」、「景色がきれい」という環境が、未来の子どもたちにとっても変わらないよう大切にしていきたいと考えています。70周年の節目に作成した『かしまBOOK』を通し、近すぎて当たり前となっている鹿島市のいいところを再発見してもらえたら。また、市民だけではなく、鹿島を愛する皆さんが魅力を広めるきっかけになることを期待しています。まちに訪れた気分で、ページを辿ってみてください。

鹿島市長 松尾勝利

観光客数

3,476.2千人

数字で
見る!

鹿島市エトセトラ!

海産物や農作物、日本酒など地域に根ざした独自の地場産業が集積する
佐賀県鹿島市。成熟した文化と豊かな自然があり、環境を守るための
取り組みにも積極的。まちの自慢を数字で見てチェック!

オーガニック認証原料

10/50
鹿島市 全国

オーガニックコスメにつくCOSMOS認証やBIO認証マークは第三者の認証機関が品質を保証するもので、商品を選ぶうえで欠かせない。認証されている原料は、世界では1600種ほど、国産では50種ほどで圧倒的に少ない現状だが、うち鹿島市産は10種認められている(2023年2月)



酒蔵の数

佐賀県内でいちばん多い!

県内23蔵のうち5蔵が鹿島市



民俗芸能の数

83

佐賀県一高い山

経ヶ岳 1,075.7m

The Ariake Sea



Hizenhama Sta.

Hizenhamashuku
Sakagura street

Yutoku Inari
Shrine

Hizennanaura Sta.

面積

112.12km²

人口

27,295人

10,945世帯 (2024年9月30日時点)

有明海の干満の差

最大約6m

ごみの分別

8種類に分別(+資源ごみ)



Nakakoba Dam

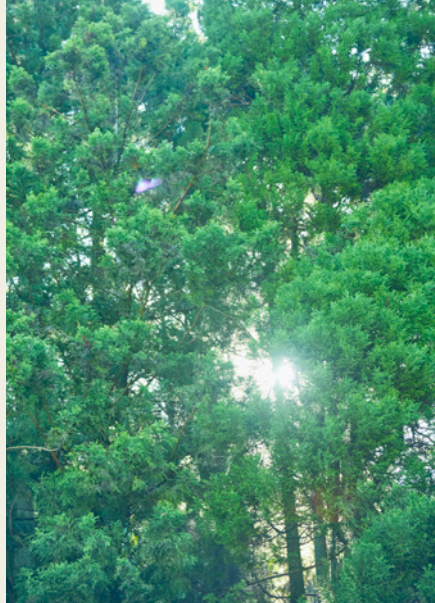


Mt. Kyoga

いいモノ、いい景色

70の鹿島の魅力を探しに

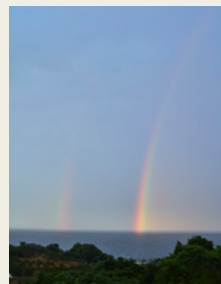
佐賀県南西部に位置し、有明海や多良山系など
豊かな自然と歴史に彩られた鹿島市。
70年という時の中で育まれた風土、文化、ひとは
まちの大きな宝であり、未来への贈り物。
これまでも、これからも、ずっと愛しい
わたしたちの鹿島の魅力を探しに出かけよう



昔から暮らすひと、
新しくやってきたひと。
市民に聞いた鹿島の“今”



WE KASHIMA
70th Anniversary



Explore the 70 attractions in my city!



いつか思い出になる

10代に見た景色

笑顔眩しい! 未来をつくる高校生

NAME 眞崎悠羽さん | OCCUPATION 高校生

MY FAVORITE
能古見の川

04 鹿島は自然の宝庫。山、川、海に触れることが気分転換に。「人通りの少ない商店街は寂しいので、活気が戻るといい」

NAME 中島澄香さん | OCCUPATION 高校生

MY FAVORITE
北公園

03 以前は電線が今より少なく、きれいな空が広がっていた。自然を大事にしながら、暮らしやすい未来が中島さんの望み。

NAME 江島千颯さん | OCCUPATION 高校生

MY FAVORITE
肥前鹿島駅近くの河川敷

02 「学生が勉強やディスカッションできる場所や旅人向けの情報の充実を!」。市内外の人々が楽しめるまちづくりをしてほしい。

NAME 織田こころさん | OCCUPATION 高校生

MY FAVORITE
蟻尾山公園

01 田んぼが減り、織田さんの好きな景色が変わりつつある。「いい意味での田舎さ、地元の味はこれからも失いたくない」

先生たちの心の拠り所

明日も頑張るために



温かく優しく。世代をつなぐ保育士

NAME 迎 莉沙さん | OCCUPATION 保育士

MY FAVORITE
『観光酒蔵 肥前屋』

08 酒蔵通りにある「肥前屋」へは、とっておきのおつまみを買いに。お目当ては、芳醇な吟醸酒が香る「粕漬クリームチーズ」。

NAME 三原優里さん | OCCUPATION 保育士

MY FAVORITE
『浜宿キッチン』

07 三原さんのお気に入りのレストラン、『浜宿キッチン』は築200年以上の建物が風情たっぷり。「おすすめは、『からあげ定食』！」

NAME 藤永優沙さん | OCCUPATION 保育士

MY FAVORITE
蠍尾山公園

06 スポーツ好きの藤永さんはクロスカントリーコースでランニング！「市民球場で草野球を眺める時間もリフレッシュに」

NAME 中山咲希さん | OCCUPATION 保育士

MY FAVORITE
『市民交流プラザ「かたらい」』

05 母でもある中山さんが立ち寄り子育て支援センター。「子どもを遊ばせたり、相談にのってもらったり、頼りにする場所」

1955年『祐徳遊園地』が開園



←『祐徳自動車株式会社』が、祐徳稲荷神社参拝客の休養と子どもの遊び場として設置。東山公園と錦波川の間にある園内には、観覧車や汽車などがあり、テナガザルをはじめとする10種類の動物も飼育されていたため、多くの人々で賑わった。

1962年 未曾有の大災害



↑1962年7月、鹿島市は梅雨前線の停滞による集中豪雨に見舞われ、河川が氾濫。中心街は浸水し、陸の孤島と化した。死者5名、負傷者15名をはじめ、家屋の流失などが相次ぎ、被害総額は27億円超えと言われている。

1933年 浜町のシンボル「赤鳥居」



↑肥前浜駅近くに、祐徳稲荷神社の一の鳥居として設置された「赤鳥居」。高さ18m、幅23mで、当時は日本最大級の大ささだったという。浜町の象徴として地元民に愛されていたが、老朽化により2007年に惜しまれつつ解体された。

→江戸時代から続く伝統行事「ふな市」は、毎年1月19日に開催。まだ暗い早朝から酒蔵通りにフナ業者が並び、人々が買いに訪れる。写真は1974年の様子。多くの店で賑わっていたが、年々その出店数は減り続け、現在は1店のみ。

1970年代 300年以上続く「ふな市」



1954年 市制施行記念祝賀

昭和29年4月1日、鹿島町、能古見村、古枝村、浜町、鹿島村の5つの町村が合併して鹿島市が誕生。同年10月1日には、市制施行祝賀記念式が盛大に開催され、市旗がはためき、街中は仮装行列でお祭り状態に。当時の市長は象に乗り、市内を練り歩いた。市役所前の舞台では、各地区の郷土芸能が披露され、市民にとって特別な一日となった。



鹿島市歴史写真館

Kashima's 70years of history

2024年は鹿島市が誕生して70周年。
これまでここに暮らす市民が歩んできた道のりを
象徴的なイベントの写真と共に振り返り。



1985年 第一回鹿島ガタリンピック

当時、高速交通体系から離れていた鹿島市。そこに危機感を抱いた若手経営者たちが、市の活性化を目指して、日本最大級の干潟の上で行うスポーツの祭典「第一回 鹿島ガタリンピック」を開催。300人が出場し、5000人超えの観客が集結した。



(右) 材料には佐賀県の県木でもあるクスノキを使用 (左上) 細工に合わせ道具を使い分ける (左下) 地区により表情の異なる「浮立面」

まちと共に歩んだ面師の道。「浮立面」を彫り70年

NAME OCCUPATION

中原恵峰さん | 面師

MY FAVORITE

弟子入りした
工房近辺(西牟田)

09 長崎県諫早市出身の中原さんは15歳の時に、彫刻師の初代小森恵雲氏に弟子入り。初めて肥前鹿島駅に降り立った日は折しも市制施行記念祝賀の日、まちは大いに賑わっていた。「修業時代に得たものや経験はお金では買えない」と語る、その記憶は今も鮮やか。あの日から70年、現役で県内各地に受け継がれている「面浮立」の面を制作する。



故郷を盛り上げたい！

可愛い猫を助けながら



(右)『保護猫カフェ ねこの蔵』の猫たちと一緒に (左) スタッフに大事にされ、くつろぎモードのにゃんず

まちと同年。元気な鹿島レディの現在地

NAME OCCUPATION
半田ひとみさん | 保護猫カフェスタッフ

MY FAVORITE
「花のトンネル」、
まつかぜ
松陰神社

10 長年保護猫のボランティアに携わる半田さんは、昨年末に保護猫カフェを仲間と立ち上げた、カッコいいマチュア世代。「大手門から鹿島高校までの桜並木や松陰神社周辺には青春時代の思い出がたくさん」と振り返る。大学進学を機に福岡で暮らし、30年以上ぶりに地元へ戻ると以前よりも少し寂しさが。まちの魅力を生かした発展を願う。



鹿島から世界へ 羽ばたくアスリート

蟻尾山公園のサッカー場から

パリ五輪、英国の新天地へ

NAME 平河 悠さん | OCCUPATION サッカー選手

MY FAVORITE
蟻尾山公園

11 鹿島市出身のプロサッカープレイヤー、平河悠選手は2024年夏、パリ五輪を経て、本格的に世界をフィールドに動き出した。J1・FC町田ゼルビアからイングランド2部リーグのブリストル・シティへ期限つき移籍し、さらなる高みを目指す。「[蟻尾山公園]はキャリアの原点。サッカーの練習や試合で通い、思い出深い」

INTERNATIONAL CAREER

(主な代表歴) 2023年:U-22日本代表 AFC U23
アジア杯予選 2024年:U-23日本代表 パリ五輪

PAST CAREER

明倫JSC→FCレヴォーナ→佐賀東高校→山梨
学院大学→FC町田ゼルビアに2021年加入

PROFILE

BIRTH PLACE 佐賀県鹿島市

DATE OF BIRTH 2001年1月3日

FOOTBALL POSITIONS フォワード

地元の民俗芸能を次世代へ。

いっせいぶりゅう

「一声浮立」を学ぶ子どもたち

児童たちの太鼓が鳴る

琴路神社の通夜

12 鹿島市にある約80の民俗芸能のうち、そのほとんどを占めるのが「浮立」。祭りの行列の中で華やかな部分が独立して演じられるようになったもので、市内にあるのは「面浮立」、「鉦浮立」、「獅子浮立」、そして「一声浮立」。毎年8月31日に行われる夏祭り、琴路神社の「一番通夜」では台風除けと豊作を祈願して、氏子である各地区に伝わる笛や太鼓などの一声浮立を奉納する。『納言分浮立保存会』では地区の小学生たちが夏休み中練習をして、通夜で本番へ。この子どもたちの手で浮立が受け継がれていく。

人間国宝の 技を継承

NAME 鈴木清人さん | OCCUPATION 郷土玩具&染色作家

MY FAVORITE
旭ヶ岡公園

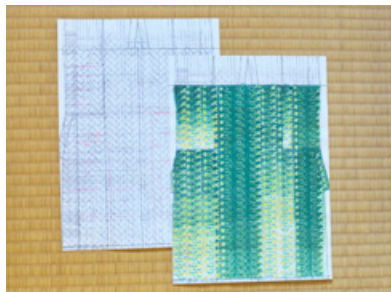
13 染色技法、「木版摺更紗」の後継者として制作に励む清人さんには、伝統工芸が目に触れる機会を増やしたいという思いがある。佐賀県には焼き物や織物など歴史ある工芸品が多く、県全体として盛り上げていけたら。「偉大な祖父、父と異なる作風を出すのは大変だが、その時代だからこそできるデザインを模索していきたい」



(下右) デザインのアイデアとなった庭に植えてある棕櫚竹^{しゅろちく}のスケッチ
(下中) 清人さんが作った木版と型紙。
(下左) 模様的位置、配色は綿密に調整。PCのソフトを使って効率も重視



佐賀県全体で
伝統工芸を盛り上げる



もくはんずりさらさ
(「木版摺更紗」とは？)



14 佐賀藩に伝わる伝統工芸、「鍋島更紗」。継承者が途絶え失われていた技法を、清人さんの祖父・照次さんが「木版摺更紗」として復活させ、再び日の目を見た。手製の木版と型紙で柄や色をつけていく技法で、一作品に何千回もの木版を押す。照次さんが秘伝書から解明した技法を受け継ぎ、発展をさせた父・滋人さんは人間国宝に。こちらは清人さんが制作した着物。繊細な染色で光の陰影を再現した。



ひぜんはまえき 肥前浜駅

特急列車も停まる
地酒バー併設の駅舎

曜日ごとに5つのルートで九州7県をめぐる特急列車「36ぶらす3」が途中停車する肥前浜駅。停車時間では地酒の飲み比べや特産品の販売を行い、旅人たちをもてなす。駅には日本酒バーが併設され、ひとりでも入りやすく、電車と田畑を眺めながらチルなひとときを過ごせる。2024年10月、天皇陛下ご夫妻が訪問された。

(上右) 趣のある窓 (上左)
駅舎には観光案内所、駅ビ
アノも (下) ホームの向こ
うは田畑が一面に



ひぜんなうらえき 肥前七浦駅

住民に愛される
昭和レトロな駅

1934年に建築された木造駅舎は無人駅ながらいつ訪れてもきれいで明るい雰囲気。地元のボランティアの人たちが駅を大切に、花を生けたり写真を飾ったり、アットホームな空気が流れる。ホームに立つと山々が近く、跨線橋から駅の東側を向けば、ちょっと遠くに海がちらり。



(右) 鹿島の一大イベント、「ガタリンピック」開催時には最寄り駅に (左) 乗客の心を和ます季節の野花



15

ノスタルジー漂う 美しい駅舎

JR九州・長崎本線の単線区間にある肥前七浦駅、肥前浜駅。田畑が広がる、のどかな風景に姿を現す駅舎は、まちの玄関口としてずっと変わらぬ姿を。今日も明日も市民や旅人を温かく出迎え、見送る。



(左から順に)

NAME OCCUPATION
中村幸平さん | みかん農家

MY FAVORITE
『鹿島市B&G海洋センター』

16 家業を継ぐ前、県外で就職したが1年もたずに鹿島へ戻った。「慣れ親しんだ地元が心落ち着くと外に出て気づいた」

NAME OCCUPATION
中村太誠さん | 鹿島市職員

MY FAVORITE
龍宿浦の小川

17 地元・七浦地区龍宿浦は仲間が集まり、順に家飲みする「三夜待」の佐賀文化が若い世代にも続く。忙しい日々の楽しみに。

NAME OCCUPATION
中村健一さん | 鹿島市職員

MY FAVORITE
みかん畑から見下ろす景色

18 2022年まで「白いかもめ」と特急列車が通っていた肥前飯田駅。「みかん畑から列車と海を同時に見下ろすことができた」

NAME OCCUPATION
土井優弘さん | 会社員

MY FAVORITE
干潟

19 都会に憧れたこともあったが、地元のよさをしみじみ。「棚田を眺めると心癒され、休日でも喜んで手伝うほど農業が好き」

NAME OCCUPATION
中村英吉さん | 鹿島市職員

MY FAVORITE
蟻尾山公園

20 豊かな自然環境は守りたいが、店の少なさが悩ましい。「買い物は市外なので、ショッピング施設ができるといい」

住民がヒーローに。わがまちの消防団

普段はさまざまな仕事に就く、住居または職場が鹿島市にあるメンバーたちで組織されている消防団。日頃から訓練と予防に努め、地域における消防防災のリーダーとして、鹿島のような地方都市ではとりわけ重要な役割を担う。七浦消防団第2部1班は13名が所属し、わがまちを守るため活動する！

大人になってわかる
仲間がいる地元のよさ



鹿島市が本拠地。『BrewKASHIMA』

九州サッカーリーグで活躍する社会人チーム『^{ブリュウカシマ}BrewKASHIMA』！
まちの行事にもサポーターとして参加するなど地域密着型スポーツチームとして愛される

市民との
試合での
パワーの
源に！
触れ合いが



NAME	OCCUPATION
比嘉和輝さん	サッカー選手
MY FAVORITE	
祐徳稲荷神社	

24 比嘉選手は初めて祐徳稲荷神社に訪れた時、地元沖縄との風土の違いに驚いたそう。その厳かな雰囲気魅了されて。

NAME	OCCUPATION
糸房珠希さん	サッカー選手
MY FAVORITE	
酒蔵通り	

23 関東出身の糸房選手は、環境のよさを気に入りながらもリクエストが。「若者向けのリフレッシュ施設ができれば最高！」

NAME	OCCUPATION
本田昂慎さん	サッカー選手
MY FAVORITE	
祐徳稲荷神社の奥の院	

22 鹿島に来て2年たつ本田選手が感じるの、住民間の温かいつながり。「皆さんとのコミュニケーションに元気づけられる！」

NAME	OCCUPATION
八尾駿介さん	サッカー選手
MY FAVORITE	
蟻尾山公園	

21 地元似た雰囲気のある鹿島は居心地がいいという兵庫県出身の八尾選手。「外からの人にオープンな市民性うれしい」



（ スポーツの聖地!『鹿島市陸上競技場』 ）

25 鹿島市中心市街地の南西部にある、自然に囲まれた『きびざんこうえん蟻尾山公園』。

ここには、陸上競技場、市民野球場、クロスカントリー、グラウンド・ゴルフ場を完備。

マラソンやサッカー、野球……あらゆるスポーツを澄んだ空気の中でプレイできる。





過ぎ去りし日の思い出と
未来に向けて築きたいもの

(上右から順に)
NAME (中右) 三原 光さん | OCCUPATION 会社員
MY FAVORITE 祐徳稲荷神社

27 「自然に恵まれた鹿島には、『ガタリンピック』など四季折々の催しが目白押し。ここだけの体験が、三原さんの地元自慢。

(右) 中尾 太さん | OCCUPATION バー店主
MY FAVORITE 食べ物がおいしい!

26 まちを活気づけたいとアクションを起こす、元気な大人が周囲に増えていると実感。「自分もその役割を担うひとりに」

NAME (左) 鍋島洋一さん | OCCUPATION みかん農家
MY FAVORITE 経ヶ岳

30 鍋島さんの好物は有明海のおいしい海産物。以前はたくさんとれたアゲマキ貝、今はカキ、カニ、ムツゴロウに舌鼓を打つ。

NAME (中左) 森田 駿さん | OCCUPATION 小児科医
MY FAVORITE 花のトンネル

29 「子どもたちのために何かしたい」と始めたバトラン。拠点の公園はかつて部活に励み、森田さんにとって思い入れ深い地。

NAME (中) 山口清美さん | OCCUPATION 鹿島市レクリエーション協会会長
MY FAVORITE 『市民交流プラザ「かたらい」』

28 昔はもっと盛んだったみかん作り。手伝いで、自転車に乗りみかんを市場に運んだ日々は、山口さんの大切な思い出。



走りながらパトロール! 個性豊かなランチーム



2021年に発足した、鹿島市の“バトラン”チーム。走りながらまちをパトロールするか、歩きながら路上のごみを拾うか、メンバーは自分に合う活動方法で参加。地域のため健康のため、取り組む理由はそれぞれだが、ポジティブなエネルギーにあふれる!

(右) 月に一度、北公園に集合して5kmの夜ランニング! (左上) 世代や職種を超え、交流できるのも魅力

箱根駅伝を疑似体験！鹿島市のRUNマップ

正月の風物詩、箱根駅伝。その特徴的な山間や海沿いを走るコースと似た環境が整った鹿島市が、近年、駅伝参加校の強化合宿地として注目を集めている。実際に、選手たちが練習で利用する市内のランニングコースと毎年2月に開催されるマラソン大会「公認鹿島祐徳ロードレース大会」をご紹介します！



1 区類似コース
新龍海岸
最大標高差 6m

箱根1区といえば、平坦で直線的なコースが長く続き、レースの流れを大きく左右する区間。そこそ似たコースが、肥前鹿島干潟の海岸沿い。見晴らしがよい点も魅力。



2 区類似コース
国道207号 鹿島バイパス
最大標高差 45m

距離が長く、アップダウンが激しい“花の2区”。各校のエースが走るこのコースと類似しているのが、バイパスエリア。ゆるやかな坂は、体力、精神力が試される。



3 区類似コース
蟻尾山公園～市街地
最大標高差 69m

箱根3区の前半同様、鹿島も蟻尾山の中腹から市街地にかけてゆるやかな下り坂が続く。また、市内を一望できる景勝地で、富士山や相模湾を望む箱根のコースと類似。



4 区類似コース
中庭ダム
最大標高差 35m

眼下に広がる巨大なダムを横目にランニングができる、中庭ダム周辺コース。ここは往路の終盤に向けて必要な4区の特徴である、ゆるやかな上りが体験できる。



5 区類似コース
市街地～平谷温泉
最大標高差 714m

標高約874mまでを一気に駆け上がり、最高地点を過ぎると一転して下る、最大の難所である箱根5区。同様に、鹿島のコースも市街地から山中の平谷温泉まで続く。



初心者からプロまで参加
「公認鹿島祐徳ロードレース大会」

1952年、地域を活気づけるために始まった大会。当初は20kmで開催され、第38回から第49回までは30kmで実施。第50回からハーフラソンに定着した。過去大会の優勝者の中にはオリンピック出場経験があるランナーもいる。2025年は、中学生のみが参加可能な3kmコースも用意されている。



箱根駅伝常連校が
市内で強化合宿

マラソンの練習環境が整った鹿島市は、近年、箱根駅伝常連校の合宿地として多くの学校に選ばれている。2024年には、第100回箱根駅伝で総合4位の東洋大学陸上競技部が来訪し、陸上競技場でのトラック練習や市内でのロード練習に加え、祐徳稲荷神社で必勝祈願を行い、充実の期間を過ごした。

強豪校が
続々と！



遊んで、癒されて。 恵みの干潟で働く

ムツゴロウ、ワラスボなど日本では主に有明海にしか
生息していない固有種の生物も多く、
日本一個性的な海と呼ばれる、有明海。
満潮の時間は海に、干潮の時間は広大な干潟に。
干潟をフィールドに働き、恵みをシェア！

33 有明海に接する『道の駅 鹿島』には、ここならではの体験と特産品が充実。海を一望できる干潟展望館、有明海の生物を展示するミニ水族館、グルメは物産館の「干菜市」で。4～10月は全国でも珍しい干潟体験を楽しめる。



地酒とおいしいもので

英気を養う！

NAME 下村浩信さん | 「道の駅 鹿島」駅長
OCCUPATION
MY FAVORITE 七浦の丘陵地から見る有明海

31 地元の七浦地区にできた、佐賀県初の道の駅で駅長を務める下村さん。県内人気No.1の職場は誇りだけど、私的なお気に入りには駅前通りの飲み屋さん。「鹿島の酒蔵のおいしい地酒を飲むことができ、料理もおいしい！そこで出会ったいろんな人とコミュニケーションがとれるのも楽しい」



身近になって気づく
干潟のポテンシャル

NAME 中島英貴さん | 干潟インストラクター
OCCUPATION
MY FAVORITE 干潟

32 まちの中心地で育った中島さんにとって、大人になり仕事として携わるようになった干潟はまるで違う印象へ変わったという。「濁っていると思っていた海は、なめらかな泥がつくる肥沃な土壌だった。これだけ大規模で遊べる干潟は鹿島だけ。これからいい意味で、楽しい田舎であってほしい」



表情を変える自然が美しい
子育てには最適な環境

地元が大好き。 同郷夫婦でのり養殖

NAME 松本秀章さん、愛さん
OCCUPATION のり養殖業

MY FAVORITE
『矢筈展望所』

34 松本さんご夫妻が暮らす七浦は、市内でも山と海が身近なエリア。日々変化する自然が美しく、子どもがのびのび育つことができるという。漁業や農業が盛んだった頃は子どもの数もすごく多かったけど、今は市外に出ていく若者たちもいて、ちょっと寂しいのが本音。「若い世代が多いほど、まちの未来の選択肢は増えるはず。彼らがここで何かをしたいと思える鹿島にしていきたいですね」



Uターンして家業を継いだ 若手農家



鹿島の農産物のおいしさ

他の土地のものを食べ、知る



(右) 家業のみかん栽培とは別に、自身で始めたアスパラガスのハウス栽培 (左) アスパラガスを育てるのは、想像以上に手がかかるそう

NAME	OCCUPATION
坂本 廉さん	アスパラ農家

MY FAVORITE
有明海

35 地元へUターンし、家業の農家に。まったく別の仕事から転身し、農業の喜びも自然相手の大変さも味わったという。「外に出て、鹿島のいいところは農作物のおいしさだと再認識」と坂本さん。その大地となる美しい山も放置されていると荒れてしまう。「後継者不足はこれからのための課題ですね」



結婚してから暮らした

このまちがいちばん好きに

搾りたて生乳で作るジェラートも人気! 市内唯一の酪農家

NAME 塚島隆弘さん、信子さん | OCCUPATION 酪農家

MY FAVORITE
祐徳稲荷神社、柿原の滝つぼ

36 関東出身の信子さんは、25年前に酪農家である隆弘さんの元へ嫁いだ時に鹿島へ。それまでさまざまなまちで暮らしてきたが、今は鹿島がいちばん! 「のんびりとした空気や優しいコミュニティ、そして牧場から明海を見下ろす絶景など好きなものがたくさんある。鹿島へ移住する人が増え、面白いことをしてくれたらうれしい」(信子さん)





(上) 花のめしべを乾燥させて香辛料に (中) 室内保管で高品質に育てる
(下) サフランの球根

生まれ育った山で見つけた
新たな生きがい

第二の人生も輝く。脱サラしたサフラン農家

NAME 西 喜佐雄さん | OCCUPATION サフラン農家

MY FAVORITE
早ノ瀬地区

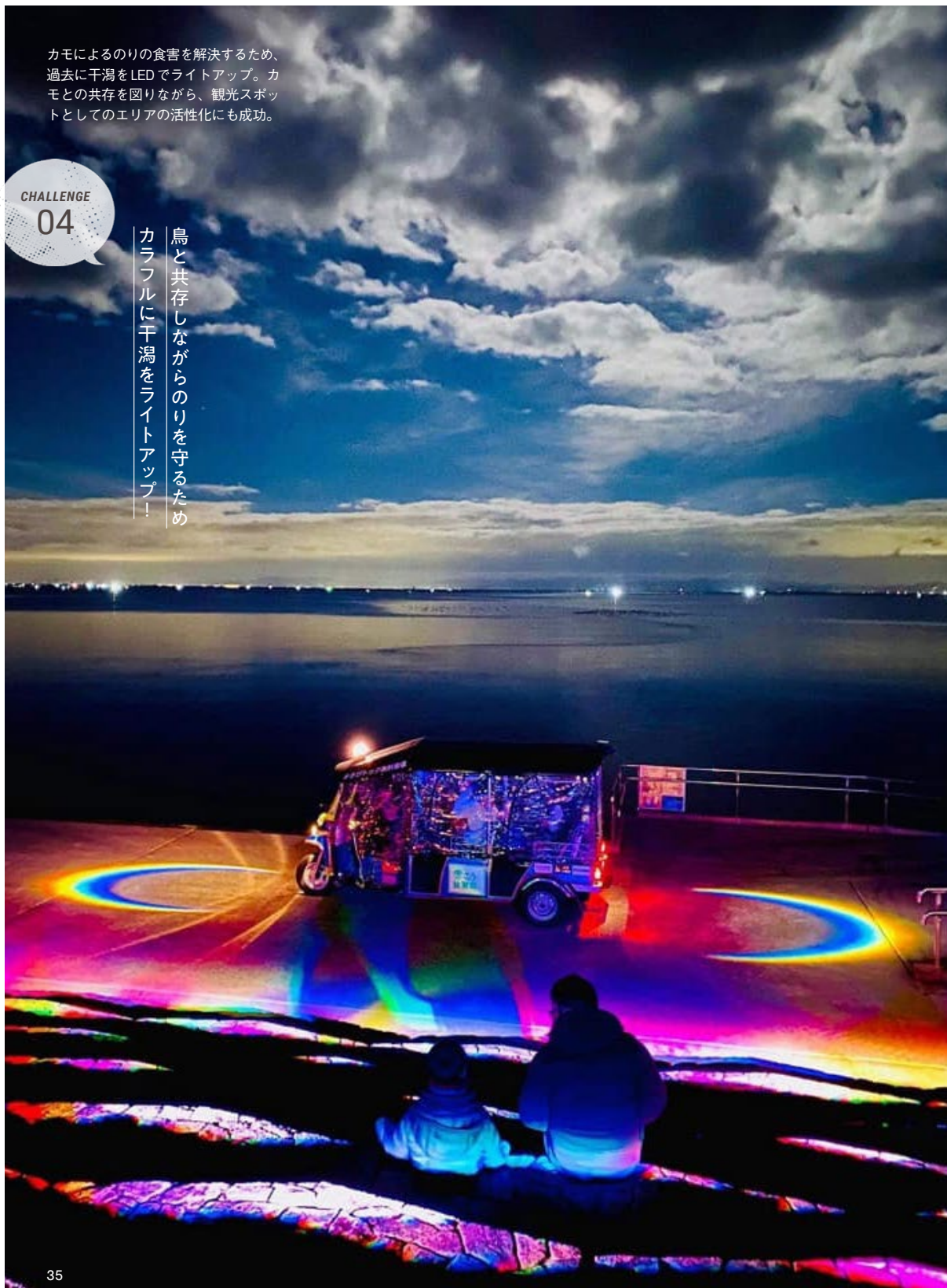
37 60歳で心機一転、ものづくりをしてみたいとサフラン農家の道を歩み出した西さん。いちばん好きな場所であり生まれ育った早ノ瀬の環境は、思いがけずサフラン栽培に最適だったという。研究熱心な西さんのサフランは瞬く間に世界中から注文を受けるように。「まちも、海や山の可能性を生かすことができれば、人をもっと呼び込めるはず」



カモによるのりの食害を解決するため、過去に干潟をLEDでライトアップ。カモとの共存を図りながら、観光スポットとしてのエリアの活性化にも成功。

CHALLENGE
04

鳥と共存しながらのりを守るため
カラフルに干潟をライトアップ！

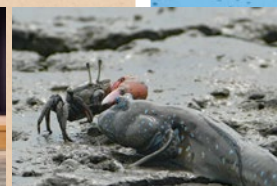


鹿島市がSDGs先進都市って知ってた!?

内閣府の「SDGs未来都市」に選定された鹿島市。地元愛あふれるサステナブルな取り組みをご紹介します。

干潟から始まる 自然と社会の幸せなサイクル

2015年、湿地に生息する動植物の保全が目的の「ラムサール条約」に登録された肥前鹿島干潟。それを契機に、鹿島市は環境や経済などの問題解決に向けた取り組みを本格的に開始した。市民、企業、金融機関、地方自治体が一体となり、干潟を起点に産業を回す仕組みが次々と生まれ、SDGs達成に向けた好循環が広がっている。



(左) 干潟をシンボルに、SDGsをベースにした事業支援のシステムが評価されて2023年、「第2回地方創生SDGs金融表彰」を受賞した。先に受賞した「第10回グッドライフアワード」、「第3回グリーンインフラ大賞」とあわせ「環境系大臣表彰3冠」を達成！

CHALLENGE
03



地域の悩みをロハスに解決！
ウィンウィンな4つの取り組み

下記の堆肥で育てた稲

鹿島市では、地元の商品を「ラムサールブランド」として認証し、売上の一部を干潟などの環境保全に活用。たとえば、海岸清掃で刈り取ったヨシなどを使った堆肥で米を栽培したり、地元の酒蔵が棚田米で日本酒を造ったりすることで、土砂災害や水害の軽減、耕作放棄地の活用を促し、経済活性化と環境保全の両立を実現する。

CHALLENGE
01

←「矢野酒造」と「馬場酒造場」が協業し、棚田米で造った日本酒「ごえん」
↓耕作放棄地で育成した経産牛「ななうら放牧牛」で作る「HOUBOKU BURGER」



CHALLENGE
02

資源をどう守っていくか。
歩み続けた、前例なき道



(右) 武富孝子さん、(左) 宮崎憲治さん

(豊かな環境を残すために。SDGsのフロンランナー)

2023年に佐賀県で初めて内閣府の「SDGs未来都市」として選定された鹿島市。その先陣を切ったのが、鹿島市ラムサール条約推進協議会会長の宮崎憲治さんと鹿島市衛生推進協議会会長の武富孝子さんだ。湿地保全に携わる宮崎さんはスイートピー農家で、40年以上前に有機栽培へ転換。ラムサール米に使われる有機堆肥を考案し、環境保護に尽力する。武富さんは、市内の徹底したごみ分別を推進した立役者。プラスチックの間違った処理方法が農地や健康に影響を及ぼすことを周知させ、県内一のごみ分別数となる基盤をつくった。ふたりに共通するのは、今の環境を次世代に届けるために何ができるかという思い。周囲からの風当たりが強かった時も、信念に従ったアクションに迷いはない。

SDGsの現場!

清掃プロフェッショナルの

お仕事ルポ

市内唯一の廃棄物処理業者『鹿島環境整備社』。その役割はごみの分別収集から始まり、多岐にわたる。生ごみを回収し堆肥にする事業に取り組み、ひとり暮らしのお年寄りの家へは個別収集も。クリーンなまちづくりの一端を担う。

市民の暮らしと環境のため
まちをクリーンアップ!



(上) 肉体労働を要するが、社会貢献度は高い! (中) 市内すべてのごみがここに集まる (下) 回収したごみを点検し分別

有明海の景観を守る
沿岸清掃もサポート

「肥前鹿島干潟SDGs推進パートナー」として、有明海の環境保全においても活躍! 「ガタピカ」など海岸清掃で出たごみも分別し、処理する。



NAME
成松豊隆さん、悦子さん

OCCUPATION
『割烹清川』代表取締役・女将

MY FAVORITE
料亭の庭、能古見の水田

40 大正2年創業の老舗料亭は鹿島の発展も衰退も共に歩んできた。と語る、主人の豊隆さん。日本食の長所は変わり続けること、まちも伝統を大切にしつつ進化しなければと感じる。妻の悦子さんは長崎県出身。能古見の水田に空が映る僅かな期間が待ち遠しい。「何度見ても感動を覚える景色です」



NAME
山口喜大さん

OCCUPATION
『山口木材』専務取締役

MY FAVORITE
「鹿島おどり」、柿原の川

41 鹿島の夏が好きだという山口さんがおすすめするスポットは、柿原の川。山に囲まれた清流で少年時代は遊び、今は家族を連れて訪れる。「自然と人が調和し、大きな災害が少なく、安心して暮らせる環境もまちのいいところ！」



まちも文化も、伝統を大切にしながら進化しなければ



鹿島が最もアツくなる夏の行事に心惹かれて



お年寄りの温かさを見做い困っている人を助けたい



地元出身のアスリートの活躍がうれしい！

鹿島市を支える働くオトナ

（「肥前鹿島干潟SDGs推進パートナー」の皆さん）

有明海の環境保全を通じてSDGsの推進に取り組む企業の地元のキーパーソンたち。リアルな声から鹿島をひもとく

NAME
松岡 優さん

OCCUPATION
『善基商事』専務

MY FAVORITE
市民の温かい人柄

38 市内の人気行事に運営側として携わる松岡さん。準備は大変だが、訪れた人々の笑顔を見るのが好きで、疲れも吹き飛ぶという。「世代を超えた温かいつながりが鹿島の魅力。これからも困っている人に優しいコミュニティでありたい」



NAME
家永俊弘さん

OCCUPATION
『104 FOCUS GYM』代表

MY FAVORITE
祐徳稲荷神社

39 遠方の人にも通うフィットネスジムを運営する家永さんにとって、地元出身のアスリートが活躍することは何よりの喜び。祐徳稲荷神社は学生時代に野球の必勝祈願でお参りし、県大会ベスト4に！「今も節目に訪れる好きな場所」





絶景が待つ

鹿島の美しい自然

豊かな水が育む風光明媚なまち、鹿島。

少し足を延ばせば思わず息を呑むような

絶景に浸り、四季折々のディープな体験ができる。

地元民も愛してやまない、癒しの自然がここに



夏休みの中川

42 地元っ子たちの水遊び場といえ
ば、能古見地区の中川。渓谷の清流
は夏でも冷たく、川の流れも穏や
か。透明度の高い水に辺りの木々が
映り、エメラルドグリーンに輝く。



里山のみかん畑

43 多良山系の中腹にある、緑豊かな七浦地区はみかん作りが盛んなエリア。有明海の潮風を浴びて育った果実は甘く、特産品のひとつに。



とうせんざん
夕焼けの唐泉山

44 サンセットタイムは浜町辺りへドライブ。「肥前小富士」とも呼ばれる、姿の美しい唐泉山が茜色に染まった神秘的な光景を、バシヤリ！

有明海にかかる虹

45 さまざまな条件が重なると出現する一瞬の絶景は、幸運の兆し!?
雨が上がった後、有明海の水平線から二重の虹がアーチを描いた。



(鮮やかにもゆる鹿島の自然4選)

46 四季折々の絶景を満喫できる鹿島市の名スポットをラインナップ



「花のトンネル」

見頃：3月下旬～4月上旬

佐賀県三大桜の名所の一目5000本の桜

旭ヶ岡公園のそばにある桜並木は、通称「花のトンネル」と呼ばれ、お花見シーズンは大盛況。毎年「桜まつり」が開催され、夜はライトアップも。



中木庭ダム湖畔のアジサイ

見頃：6月上旬～下旬

約7000株のアジサイが作り出す絶景

棚田と山あいの自然にアジサイが溶け込む様子を楽しめる。あじさいまつりの期間は、苗木の無料配布やダムの周回散策などイベントが目白押し。



日本庭園の紅葉

見頃：11月中旬～下旬

由緒ある神社の庭園で愉しむ紅葉狩り

祐徳稲荷神社の「日本庭園」は、モミジやイチョウの紅葉が美しい名所。季節限定で抹茶を楽しみながら、真紅や黄金色に色づく木々を堪能できる。



東山公園のツツジ

見頃：4月上旬～5月上旬

満開のツツジが織りなす雅な風景

祐徳稲荷神社の外苑(東山公園)では、山の斜面に一目5万本といわれるツツジが咲き乱れる。新緑とピンクのグラデーションが生み出す景色は圧巻。



レトロな時代にタイムスリップ

情緒あふれる酒蔵通り

47

鎌倉・室町時代にまでさかのぼり、古い歴史を持つ

肥前浜宿。浜川をはさんで北側に位置する、

通称「酒蔵通り」には白壁土蔵造りの町家や酒蔵が

立ち並び、独特の風情を醸し出す



(上) どこを撮っても絵になる、美しい街並み (中) 通りにある、漁業や福德の神である恵比寿像 (下) 酒蔵の名物、軒先に吊るされた“杉玉”





かつて長崎街道の宿場町として栄えた。豊かな水とお米によって酒造りが盛んに。貴重な町並みは「重要伝統的建造物群保存地区」に選定された。

美酒を造る酒蔵の人々

県内一の酒どころ、鹿島市が誇る5つの酒蔵。互いに切磋琢磨し、
品質高まる地酒を造る職人たちに聞く、ふるさとへの思い



NAME
峰松宏文さん

OCCUPATION
『幸姫酒造』代表取締役

MY FAVORITE
祐徳稲荷神社の「奥の院」

52 大学と酒造りの修業のため、まちを離れたことのある峰松さん。外に出たことでわかった鹿島のよさは、穏やかな環境と食材の豊かさだった。「有明海で育まれた海の幸はもちろん、山の幸も日本酒もすべておいしい！ 鹿島で生産されるさまざまなものが、国内外で有名になってほしい」

NAME
飯盛日奈子さん

OCCUPATION
『富久千代酒造』専務取締役

MY FAVORITE
肥前浜駅前にあった「赤鳥居」

51 市外から仕事場である酒蔵へ毎日通う飯盛さんにとって、鹿島は暮らすまち以上に思い入れのある場所。「幼い頃には酒の原料となる田んぼの作業を手伝ったり、柿原の清流で魚釣りをしたり。酒蔵を構える酒蔵通りに以前あった大きな赤鳥居が好きで、またその姿を見たい」と懐かしむ。

NAME
馬場嵩一郎さん

OCCUPATION
『馬場酒造場』取締役

MY FAVORITE
鹿島高校の「赤門」

50 地元愛こそ鹿島の強み！ 馬場さんも生まれ育った能古見を大切にするひとり。この地区を代表する日本酒を、外にも広げたいという思いを胸に酒造りに勤しむ。「酒蔵のすぐそばを流れる川は、子どもの頃の夏の遊び場で思い出の場所。今も十分にきれいだが、もっと水が透明で冷たかった」

NAME
矢野元英さん

OCCUPATION
『矢野酒造』代表取締役

MY FAVORITE
有明海

49 県外で働いていた矢野さんが、家業を継ごうと戻った鹿島であらためて魅力に感じたのは、住民同士が助け合うアットホームな空気。「個性が大事な地酒と同じように、まちもいろんな人の個性が融合して素敵になる。きらびやかでなくていいから、面白そうだと思うまちにしていきたい」

NAME
光武和彦さん

OCCUPATION
『光武酒造場』製品部部长

MY FAVORITE
肥前浜駅前にあった「赤鳥居」

48 酒造りを生業とする光武さんが、市内から減ってほしくないと思うのは製造業。コロナ禍を経て、人の手によってつくらなさいけないものは必ずあると実感した。職場でもある酒蔵通りは観光地として美しい景観も見どころだが、実は昔の味のある町並みのほうが好きで懐かしそう思う。



馬場酒造場

風光明媚な能古見地区で誕生
佐賀料理に合う純米吟醸

1795年創業。8代目が地元産の「山田錦」と多良山系の伏流水で造る純米吟醸「能古見」を7年かけ開発。佐賀の濃い味つけの料理に合う、甘いけれど重すぎない飲み心地が特徴。少量生産を貫いている。



華やかな香りとキレのよい後味が楽しめる。
「能古見 大吟醸」720ml
¥3800

KASHIMA COLUMN _ 04

酒造りのまち、鹿島

多良山系から湧き出る地下水と、良質な米作りが盛んな鹿島では、江戸時代より酒造りが受け継がれてきた。宿場町として繁栄した肥前浜宿を中心に、現在も市内には5軒の酒蔵が伝統の技を守り続けている。



富久千代酒造

世界が認めた銘酒「鍋島」と
佐賀の味覚のマリアージュを堪能

世界最大規模のワイン品評会「IWC」のSAKE部門で最高賞を受賞した「鍋島」で有名。日本酒と食をテーマにした1日1組限定の酒蔵オーバールージュ「御宿 富久千代」やレストラン「草庵 鍋島」も人気。



兵庫県特A地区、吉川産「山田錦」のみを使用。ジュースー。「鍋島 大吟醸35」720ml ¥4950



光武酒造場

伝統と革新をテーマに
世界で愛される日本酒を製造

敷地内の井戸からくみ上げた、多良山系の伏流水と、地元産の「夢しずく」をはじめとする米で酒造りに取り組む。日本酒に限らず、本格焼酎やクラフトジンの製造にも挑戦。直売所では試飲も可能。



「山田錦」の気品に満ちた味わいを堪能できる。「純米大吟醸 光武」1800ml ¥6600



幸姫酒造

清酒「幸姫」の魅力をも
多角的に楽しめる酒蔵

1934年創業。祐徳稲荷神社のほど近くにあり、代表銘柄「幸姫」は、御神酒としても使われている。酒蔵見学も開催しており、日本酒を飲めない人も楽しめるよう、地酒ソフトクリームや甘酒も販売。



甘口で、フルーティ。
「純米吟醸 幸姫 DEAR MY PRINCESS」720ml
¥2400



矢野酒造

鹿島の土地や文化に寄り添う
すっきりとした日本酒

江戸後期に創業した『矢野酒造』の酒は、佐賀の米と地元の軟水で造られ、熟成でもおいしく、郷土料理にも合う酒がモットー。芳醇な味わいの多い鹿島の日本酒の中でも、ひととき軽快な味わいが魅力。



りんご系の香り。やや甘口で軽やか。「肥前蔵心 純米吟醸（山田錦）」1800ml ¥3740

酒蔵だけじゃない

フォトジェニックなスポット

八宿公民館



HAMA BAR



田雑商店
(漬蔵たそ)



肥前浜駅
(観光案内所)

ゲストハウスまる

JR長崎本線

旧魚市場



継場



富久千代酒造

旧中島政次家住宅

山口醤油醸造場

光武酒造場

御宿富久千代

中島酒造場

浜中町八本木宿地区

知恩寺



浜川



肥前酒蔵
観光酒蔵
肥前屋

酒蔵通り

飯盛酒造

薬師橋



大村方酒蔵と水路



参楽橋

事比羅神社



浜橋



泰智寺
(鹿島藩鍋島家菩提寺)

臥竜ヶ岡公園



夷三郎の祠

肥前浜宿の 酒蔵通りMAP

Hizen Hamashuku / Sakagura-dori

大自然に抱かれる 山深い里へ

中木庭ダムを抜けて国道444号を進むと現れる、
佐賀県と長崎県の県境にある多良岳を

中心とした自然公園が広がるエリア。

木々のパワーを全身で感じながら深呼吸すると、
澄んだ空気が心と体をリセット



海にも山にも近い
好立地なまちが鹿島

笑顔でお迎え。 山の家のお母さん

NAME

一ノ瀬由美子さん

OCCUPATION

『鹿島市自然の館 ひらたに』 職員

MY FAVORITE

肥前鹿島駅裏の堤防沿いから見る夕日

54 干潟からちょっと車を走らせれば、木々が生い茂る山々が間近に。「気軽にアクセスできるのが、この辺りが人気の理由」と教えてくれたのは『鹿島市自然の館 ひらたに』に勤める一ノ瀬さん。多良岳県立自然公園の一角に位置する施設には部活動の合宿や登山を求め、多くの利用者がやってくる。





Q. 鹿島に移住してみてどうだった？

A. 5年前、移住してきた当時は独身だった正好さん。

最初は冷ややかな視線を浴びることもあったけど、
里山のの人たちとの関係ができてきた1年もたつ頃には、
家族のように接してくれた。「行政の方たちも協力的で、
おかげで地域に溶け込むことができてラッキーだった」。

結婚を機に移住した理沙さんは、初めて来た時から、
飯田七曲によい印象を感じたそう。「まさか自分が福岡を
離れるなんて思いもしなかったけど、新しい暮らしに
チャレンジすることが楽しい！」と笑顔あふれる。



都会のデザイナーが里山で農家に。
福岡出身の移住夫婦



里山から見た絶景が
田舎暮らしを後押し

NAME 奥 正好さん、理沙さん | そば農家

MY FAVORITE
飯田七曲から眺める景色

55 耕作放棄地を再生し、農業に頼らず自然に近いスタイルでそばの実を育て、収穫物でそば粉スイーツ専門店も営む奥さんご夫妻。「ここに住んでみようかと気持ちを後押ししたのは、七浦から望む有明海の景色。海から朝日が昇り、畑に夕日が沈む光景に惚れ惚れ」。最近では福岡に行くと、観光気分になるそう。





9月末頃からは、みかん狩りが可能。もぎたてがなんと食べ放題！



Plan ② 海を眺めながら みかん狩り

体験できるのはココ！

民宿 みんなの家

昭和初期に建てられた民家を再利用した、1日1組限定の体験型宿泊施設。有明海を一望できる絶好のロケーションにあり、ゆったりとした時間が流れる中、囲炉裏での食事や五右衛門風呂、たき火など、古民家暮らしを堪能できる。季節ごとにさまざまなイベントを開催。



Plan ③ 古民家で 日帰りBBQ

体験できるのはココ！

農家民泊 あんちゃん家

“親戚のおばちゃん家”がコンセプトのアットホームな1日1組限定の宿。日帰りでのBBQ利用もでき、有明海からの心地よい風が吹く中、新鮮な野菜や羽釜ご飯がいただける。プランによっては、佐賀牛やジビエも準備可能で、佐賀の味覚を心ゆくまで味わい尽くして。



ログハウスの庭では、たき火をしたり、天体観測も楽しめる



水着やTシャツを着て入る。インストラクターに手ほどきを受けることも可能

Plan ④ 干潟で泥んこに なって遊ぶ

体験できるのはココ！

道の駅 鹿島

七浦海浜スポーツ公園またの名を『道の駅鹿島』。ここでは有明海の干潮時に、ムツゴロウやワラスボ漁で使用する2m程度の木板に乗って干潟の上を滑る「ガタスキー」を体験できる。開催期間は、毎年4月中旬～10月。広大な海と空で、泥んこ体験は格別！



数種類ある木板から好きな形を選んで絵付けするだけ。所要時間は約30分

Plan ① 木材でオリジナルキーホルダーを作る

体験できるのはココ！

木彫工房 杉彫

佐賀県の伝統工芸品を取り扱う『杉彫』は、鬼の面の浮立面や木彫雑貨を製作している工房。箸作りや浮立面板はがき製作の体験教室を開催しており、人気なのは手軽なオリジナルキーホルダーの絵付け体験。木板を自分好みの色合いに塗り上げるだけで完成する。



〃ほとめき〃のまち、鹿島で楽しむ
10の体験

『ほとめき』とは、筑後地方の方言で「おもてなし」の意味。そんな、ほとめき、精神に満ちあふれた鹿島には、工芸品制作や着付けなど体験スポットが大充実！



店主がイチから丁寧にそば打ちを教えてくれる。事前予約制

Plan ⑧ 自分で打ったそばを食べる

体験できるのはココ! かしま自然農園

標高200mの七曲集落にある『かしま自然農園』では、製粉からそば打ちまで一連の作業を体験可能。また、併設するカフェ『Tora&Shika』では、そば粉を使ったシフォンケーキやそばの実をかけて食べるプリンなど体に優しいスイーツをご賞味あれ。



Plan 10 有明海ののりでふりかけを作る

体験できるのはココ!

まつえいまる
海苔ラボ 松栄丸

肥前浜駅では、自分だけの「海苔ふりかけ」を作れる。手順は、サケフレークや若菜わかめなど20種類の中から、3つ選んだ具材とのりの粉末をブレンドするだけ。近年、海の栄養不足で色落ちて廃棄されていたのりを有効活用しているため、フードロスにもつながる。



Plan ⑨ 日本酒バーで地酒の飲み比べ

体験できるのはココ! HAMA BAR

肥前浜駅直結の『HAMA BAR』では、鹿島5蔵の多彩な日本酒を、列車を眺めながらゆったりと飲み比べできる。純米酒、純米吟醸、純米大吟醸・大吟醸の3タイプから、気になる銘柄を選べる。お気に入りの一本が見つかれば、おみやげに購入することも可能。



Plan ⑦ レトロな町並みを着物で歩く

体験できるのはココ! 和のコトコトはじめ倶楽部

約1000点以上ある着物・小物の中からお気に入りのを選び、プロの着付け師による着付け体験を楽しめる。準備が整ったら、和装が映えるフォトジェニックな酒蔵通りを散策してみて。カメラマンの店主が、フォトガイドをしてくれるコースもある。



Plan ⑤ 好きな写真を和風クッキーに

体験できるのはココ! 井手商店

祐徳稲荷神社の門前商店街に店を構える、大正元年創業のせんべい店。絵が趣味の4代目店主が始めた「イラストクッキー」が話題で、好きな写真や文字で、自分だけのオリジナルクッキーが作れる。優しい味わいの名物「生姜せんべい」もおみやげに人気。



Plan ⑥ 写経でヒーリング

体験できるのはココ! 誕生院

心落ち着かせたい時は、『新義真言宗 大本山 誕生院』で「仏説聖不動經」の写経を。書き終えたとご本尊に永代奉納され、特別な御朱印も授かれる。所要時間は1時間程度。写経後は、四季折々の草花を楽しめる境内をじっくりと散策してみても。



鹿島市で賑やかに子育て中!
ふたつのファミリー

第二の故郷で、仕事も

プライベートも充実の日々



移住してきた素敵な人と
地元で出会い、家族に



NAME

松尾壮一郎さん、柊呂くん、柚希ちゃん、咲穂さん

OCCUPATION

『夢木香』代表取締役・経理

MY FAVORITE

浅浦分校

57 大阪出身の咲穂さんは学生時代に研修で来た鹿島に惚れ込み、卒業後、『鈴山農園』に就職。当時の活動拠点だった浅浦分校で壮一郎さんと出会い、思い出の場所に。「家族を持ち、すぐそばにホテルのいる川があるなど、あらためて浅浦地区の恵まれた環境を幸せだと思った」と壮一郎さん。

NAME

(右ページ)北御門裕一さん、結ちゃん、匂くん、恵梨子さん

OCCUPATION

『漬蔵たぞう』『百年ピクルス』スタッフ

MY FAVORITE

干潟

56 裕一さんが福岡から移住して10年、鹿島はすっかり地元。これほどなじめたのは「師匠であり友人のような、勤め先の社長・継市郎さんの存在が大きい」という。妻の恵梨子さんは豊かな土地が育む特産品や、風情ある干潟の景色の虜に。子育てに最適な環境だと実感している。

まちをもり立てる市民グループ

観光客に教えてもらった

鹿島のいいところ

NAME

中島幸代さん

OCCUPATION

「水とまちなみの会」スタッフ

MY FAVORITE

思瓊神社

58 鹿島の地酒が楽しめる「HAMA BAR」で接客もする中島さんは、観光客と話す機会が多い。都会からの旅行者に「スローな時間が流れるまち」とほめられ、当たり前すぎて気づかなかった鹿島の価値を今は自分も好きに。

『肥前浜宿水とまちなみの会』

肥前浜宿の歴史的な建物の保存と活用、町並み活性化のための活動に取り組むNPO法人。肥前浜駅では土曜朝市の開催、観光案内や併設する『HAMA BAR』の運営なども行う。



NAME OCCUPATION
RACCOさん | 『ハマガール』代表

MY FAVORITE
干潟、平谷温泉、祐徳稲荷神社をめぐるコース

60 大仕事を控えた時、エネルギーを満タンにするため、RACCOさんが訪れるコースがある。「干潟と平谷温泉で癒され、祐徳稲荷神社からパワーをもらって。3カ所をめぐり、道の駅のソフトクリームを食べれば準備万端！」

NAME OCCUPATION
池田智絵さん | 『ハマガール』メンバー

MY FAVORITE
祐徳稲荷神社の「奥の院」

59 鹿島を離れたこともある池田さんは地元へ恩返しをしたくて「ハマガール」に参加。「人情味あふれるこのまちが大好き、ほかにはない心地いいつながりがある。幼い頃から続ける日本舞踊で市民に喜んでもらえるのがうれしい」

まちのパワースポットで

チャージし大仕事に臨む

『賑い odoriko ハマガール』

「浜祇園まつり」の「奉納踊り子」が母体となり結成。肥前浜駅での観光列車の歓迎や、近隣の市町村の催事にも出演。歌謡曲に日本舞踊をアレンジした独特の振付けが人気！



春

鹿島イベント歳時記

鹿島市は、この地の文化や風土を体験できるイベントが春夏秋冬、盛りだくさん。歳時記を通じて、その魅力を振り返る！



5歳が丹精こめて造った
銘酒を飲み比べよう



一部の酒蔵を除き、各酒蔵ではお酒の無料試飲を実施している。気に入った一本があれば購入できる

酒蔵ツーリズム

開催時期…3月



鹿島市にある5つの酒蔵をめぐる、蔵人たちの交流を楽しむながら、日本酒と佐賀の美食を堪能できるイベント。県内外から多くの来場者が集まり、まちは賑やかな雰囲気包まれる。

夏

沖の島まいり

開催時期…7月



夜の海風にのせて広がる
豊漁と航海安全の祈り

大漁豊作や航海の安全を祈願するお祭り。提灯で飾られた船が、有明海沖に浮かぶ岩礁「沖ノ島」を目指す。出航時には、鉦や太鼓が一斉に打ち鳴らされ、船上では郷土芸能が披露される。

鹿島おどり

開催時期…8月



鹿島のリズムに合わせて
優雅に舞う夏の日

1962年7月8日に鹿島市で発生した大水害からの復興を願って始まった祭り。「鹿島一声浮立」「鹿島小唄」「鹿島節」といった3種類の踊りを、浴衣やはつぴを着た住民が踊り楽しむ。



青空の下で広大な干潟を
ガタスキで駆け抜ける



ガタリンピック

開催時期…5〜6月

有明海の干潟で行われる運動会。国内外から集まった老若男女が、泥にまみれガタスキ、ガタチャリなどで競争。参加者は2000人、観客動員数は約35000人を超えるイベント。

冬



燃え盛るご神火にあたり
来る年の幸せを願う

お火たき

開催時期：12月



祐徳稲荷神社の秋季大祭にて行われる「お火たき」は、田植えから収穫まで見守ってくれた山の神様を感謝の心をこめて火をたき見送る神事。境内にて、20時頃から行われる。「お山」の火にあたり、幸運が訪れる。

ふな市

開催時期：1月



恵比寿様や大黒様にお供える料理用のフナを販売する市。毎年二十日正午前（1月19日）の夜明け前、朝6時頃から始まり、昼の12時頃に終了。鹿島市の特産品を売る出店も並ぶ。



フナは、家族の人数、または、必要な重さや予算を伝えて買う



秋



伝承芸能が一堂に集結
圧巻の迫力に心奪われる

伝承芸能

フェスティバル

開催時期：9月



「伝承芸能の宝庫」である鹿島市。このイベントでは、伝承芸能の素晴らしさを体感できる。県内外から多彩な伝承芸能が集まり、佐賀県を代表する「面浮立」を間近で鑑賞できる貴重な機会。



ガタピカ

開催時期：10月下旬、11月初旬



肥前鹿島干潟で開催される清掃活動イベント。参加者は5名以内のチームを組み、拾ったごみの量を競い合う。「ハロウィン大賞」があり、仮装参加も可能。環境保護について楽しく学べる。



景観美や生態系を守るため
干潟をクリーンアップ!





宮司の鍋島朝寿さんと巫女の筒井あかりさん



(上右) 荘厳な佇まいの「御神殿」(上中) 夏季のみ参道に飾られる風鈴 (上左) “狐の嫁入り”をテーマにした期間限定のナイトイベント (下) 祐徳稲荷神社の顔、堂々たる「楼門」



日本三大稲荷として数えられ、年間
で約300万人もの参拝客が訪れる
『祐徳稲荷神社』。祐徳さんの愛
称で親しまれ、商売繁盛、家運繁栄、
交通安全などのご利益があると信仰
されている。朱塗りの豪華絢爛な建
造物、山頂からの美しい眺望、地元
民おすすめの「奥の院」など見どころ
も盛りだくさんな観光名所！

61

再訪するたびに発見がある
“古くて新しい”
祐徳稲荷神社



中の人に聞く！ 祐徳稲荷神社のこれから

多言語サイン、エレベーターのある誰にとっても参拝しやすい境内、ライトアップイベント、タイ映画のロケ誘致など、新しいことに意欲的な『祐徳稲荷神社』。先頭で舵を切る鍋島宮司が他県での修行を終え戻ってきた時、神社も発展的にしていかなければいけないと危機感を覚えたことがきっかけに。外国との交流に努めた結果、タイの観光客からも大人気のスポットとなった。伝統にあぐらをかかず、人々の心にいつも鎮座する神社を目指す。

夢のカフェを 開店した双子姉妹

子どもの頃から通う
図書館がインプットの場



グルテンフリーのお菓子など、地元産や品質にこだわり原料を厳選

NAME

(左)一ノ瀬楓花さん、

OCCUPATION

(右)桃花さん

| カフェ経営

MY FAVORITE

蟻尾山公園、

鹿島市生涯学習センター『エイブル』

62 同じ夢を持った双子の姉妹が自分たちの店『momofuu』で目指すのは、お客さんが食べて幸せになれるお菓子作り。食材を厳選し、添加物の使用を極力控え、食事制限のある人のオーダーにも応える。「幼い頃から通う図書館は本を読むきっかけをくれ、今はリサーチに利用。料理分野の本が充実し、アイデア集めに事欠かない」



NAME

富永泰禎さん、朗子さん | カフェレストラン経営

OCCUPATION

MY FAVORITE

市民の温かい人柄

63 お隣の嬉野市出身のシェフの朗子さんとサービス担当の泰禎さんご夫妻が営む『Rana Cafe』は、鹿島市民の憩いの場。多くの飲食店が窮地に陥ったコロナ禍も、お客さんのおかげで乗り越えられた。「常連さんたちに支えられ客足は減らず、感謝でいっぱい」

コロナ禍を救ってくれた
鹿島の常連さんに感謝



人気カフェレストランを
切り盛りする夫婦

地場野菜でつくる 老舗漬物蔵



店の看板である粕漬けをはじめ、
酢漬け、しそ漬け、みそ漬けも

NAME 田維継市郎さん | OCCUPATION 『漬蔵たぞう』社長

MY FAVORITE
事比羅神社

64 漬物づくりに欠かせない酒粕。ゆえに鹿島の酒の味わいが変われば、漬物も変わり、いわば運命共同体。寛容でありながらも、昔ながらのよさを大切にする田維さんが、今後の鹿島に求めることも同じ。「風情ある原風景こそ、魅力であることを見失ってはいけない」



大事にしていくなれば
鹿島ならではの風情

地元民のごちそうを作る うなぎ職人



九州産のうなぎを炭火焼きで。
良質な地下水がおいしさの秘訣

NAME 峰松芳明さん | 「峰松うなぎ屋」店主

MY FAVORITE
有明海

65 有明海に近い浜川右岸でうなぎ店を代々営む峰松さん。店のそばを通る多良海道は賑やかな通りだったが、河川工事によって様子が変わった。当時の活気は懐かしいけれど静けさもいい。「佐賀空港からの帰路、夜空に見える星が増えてくるとホッと安心する」



昔を懐かしく思うけど
落ち着きのあるまちも好き

歴史のまち鹿島を散策

江戸時代に発展した鹿島藩主鍋島家ゆかりの城や寺、
さらには飛鳥時代の古墳まで、鹿島に残る
歴史的価値の高い建造物や史跡をめぐって、
当時へタイムスリップしよう！

茅葺き屋根の趣ある通りで
悠久の時の流れを感じる

茅葺きの町並み

江戸時代から商人や船乗り、鍛冶職人などが暮らし、活気に満ちていた浜川右岸。有明海に近いため、現在も多くの漁師が生活しており、細い路地沿いには、手入れされた茅葺きの民家が密集する。



世にも珍しい浅浦嬉野氏の人形の墓石



浅浦嬉野氏墓地の人形墓塔

江戸時代に浅浦地区一帯を領有していた嬉野氏の菩提寺である元光寺。その裏山にある嬉野一族の墓地には、全国的にも珍しい人形の墓石が5基も置かれている。

とぼけた顔が愛らしい1対の狛犬



『救世神社』の肥前狛犬

1617年創始の救世神社の神殿には、無駄をそぎ落とした、抽象的なフォルムが特徴の1対の「石造狛犬」が安置されている。江戸時代前期に寄進され、鹿島市の重要文化財に指定。

戦をくぐり抜けた鹿島城の貴重な遺構



鹿島城大手門

明治7年の「佐賀の乱」の際に城は焼失したが、奇跡的に残った「大手門」と左記の「赤門」は市のシンボル。この門の形式は「高麗門」で、もとは黒色で、昭和27年に赤色に生まれ変わった。

県立鹿島高校の校門として今も現役



鹿島城赤門

鹿島城の本丸御殿の表門は1808年に建築。全国的に見ても赤色の城門は非常に珍しく、大手門と共に県の重要文化財に指定されている。現在は朱色だが、もとはベンガラ色だった。

鬼塚古墳

誕生院の境内にある、この地の有力者の墓とされる巨石墳の「鬼塚古墳」。築造年代は7世紀と考えられており、昭和52年に文化財指定を受けた。石室内部に入って、自由に見学ができる。



古墳文化が栄えた時代を体感



(右) 直径30m、高さ5mある円墳の入り口 (左) 石室は全長16.2mもある

鹿島のパワースポットでエネルギーチャージ

名僧が生まれた寺から大地のパワーを秘めた神社まで。深い緑に囲まれた神社仏閣で運気をアップ!

五の宮神社

奈良時代に創建
水を司る神を祀った

火山島だった場所に約1300年前、創建された治水鎮護の神社。小高い丘にあり、市内最古の鳥居が参拝客を迎える。境内の中でも特に鹽竈（しおがま）神社には、有明海の潮の満ち引きを司る海路の神が祀られており、パワーが充満。



誕生院

安産や子授けを祈る
名僧が誕生した寺

1405年、真言宗の宗派のひとつ「新義真言宗」の開祖である興教大師覚鑑聖人（こうぎょうだいしかくばんしょうにん）の生誕地に創建。安産や子授け祈願の地として知られる。産湯の井戸がある場所は、強力なパワーを秘めている。



普明寺

竜をかたどった構造の
霊験あらたかな

京都の萬福寺を模して、1677年に造られた鹿島藩鍋島家の菩提寺。黄檗宗（おうばくしゅう）の寺院で全体の配置が、縁起がよいとされる竜をかたどっている。寺域には、多良山系の植物が多数自生しており、寺と寺域全体が市の文化財に指定されている。



『地域おこし協力隊』で 仙台から鹿島へ

NAME

今野香菜恵さん

OCCUPATION

『鹿島市地域おこし協力隊』隊員

MY FAVORITE

多良岳オレンジ海道

66 地元・宮城県仙台市で被災した東日本大震災では、世界中の人から助けられ心の支えになった。その恩返しをしたいという思いから、『地域おこし協力隊』の隊員として鹿島市へ移住を決意した今野さん。「ミッションを通して知り合った地元の人たちは皆、優しくフレンドリー。抜群の居心地です！」

垣根なく受け入れる、
フレンドリーな人柄に助けられて



市外ではまだ知られていない
まちのよさをアピールしたい



まちと一緒に成長! 鹿島市役所のフレッシュマン

NAME 峰松響樹さん | OCCUPATION 鹿島市職員

MY FAVORITE
旭ヶ岡公園

70 生まれ育った鹿島には豊かな自然と、酒蔵通りや祐徳稲荷神社などの観光名所があり、どちらも峰松さんが後世に残していきたいと思うまちの誇り。同時に公共交通は不便さも。「お年寄りも安心安全に買い物などへ行けるよう、改善に努めたい」

NAME 西田茉里香さん | OCCUPATION 鹿島市職員

MY FAVORITE
『赤門堂』

69 「アルバイトをしていた『赤門堂』は大好きな場所」と西田さん。鹿島の特産品を使った和菓子のおいしさはもちろん、スタッフの人柄に惹かれて就職した今でもたびたび足を運ぶ。長く愛されるお菓子から行事まで、伝統ある文化こそ鹿島の魅力。

NAME 中村朱理さん | OCCUPATION 鹿島市職員

MY FAVORITE
「ガタリンピック」

68 お隣の武雄市から鹿島へやってきてまだ間もない中村さんは、ここで暮らしてみているのは、とにかく人の温かさにあふれた住みやすさ! 「この魅力を市外の人にも伝えられるよう、交流の場を増やせたらもっと素敵なまちになっていくはず」

NAME 浅山武志さん | OCCUPATION 鹿島市職員

MY FAVORITE
祐徳稲荷神社

67 まちが大いに盛り上がりを見せる「ガタリンピック」と「鹿島おどり」は、浅山さんが楽しみにしている2大イベント。「行事の要になっているのは市民をつなぐ強い絆。こうした鹿島のよさをたくさんの人が知り、人が集まるまちになってほしい」と期待。

ハズさない鹿島の美味 & 名品10

山海の幸が豊富で、歴史と伝統が息づく鹿島市には
おみやげにぴったりの絶品グルメや愛らしいグッズが充実! 厳選した10点をご紹介します。



(7)「新油屋」の「稲荷ようかん」



(6)「潰蔵たぞう」の「百年ピクルス」



(5)「道の駅 鹿島」のシャインマスカット



(10)「祐徳稲荷神社」の
「勝守」



(9)「川田食品」の
「丸干しむつごろう」



(8)「ジェイエイベレージ佐賀」の
「多良岳山系の水」



(2)「鹿島錦」の小物



(1)「不知火海苔」の「味のり レインボー」



(4)「佐藤農場」の「オーガニックみかんジャム」



(3)「のごみ人形工房」の「のごみ人形」

(6)漬物蔵が、手作業で漬け込んだ無添加の和風ピクルス。自家栽培を含む九州産の旬の野菜を使っており、季節ごとに内容が変化。酸味と甘味のバランスがよく、まろやかな味わい。

「百年ピクルス(季節のミックス)」Sサイズ¥864



(8)「名水百選」に選ばれた轟溪流が流れる多良山系。その大自然の恵みを受けた天然水を、地下深くから採水した一本。ミネラルたっぷり、お茶やコーヒーの抽出に使っても。

「多良岳山系の水」500ml ¥113



(10)「祐徳稲荷神社」で人気No.1のお守り。就職、恋愛、試験、スポーツなど、こころの勝負運を守護してくれる。こちらは通常のサイズで、縦26cm×横15cmの超特大サイズもある。

「勝守」(大)〈縦7.7cm×横4.5cm〉¥1500



(5)温暖な気候の鹿島市では高品質なぶどう栽培が盛ん。清らかな水と肥沃な土壌で育ったため、酸味が少なく甘くてジューシー。冷蔵庫で2〜3時間冷やすとおいしさが格段にアップ。

「シャインマスカット」¥2400



(7)祐徳稲荷神社のお膝元にある『新油屋』の名物商品、紙筒に入ったようかん。下から押し出し、糸で好きなサイズに切って楽しむスタイルで、優しい甘さが多くの人の舌を虜に。

「稲荷ようかん」(6本) ¥1900



(9)有明海に生息する珍魚「ムツゴロウ」を、自家製しょうゆだれに漬けて乾燥させた一品。臭みがまったくなく、スナック感覚でそのまま食べられる。日本酒やビールのアテにぴったり。

「丸干しむつごろう」¥540



(2)金や銀の箔を貼った和紙で作るたて糸と、絹のよこ糸を織り上げて作る「鹿島錦」。キーホルダーや印鑑入れなど、実用品も揃っており、繊細な模様と色合いはため息が出る美しさ。

(右)「ストラップ」¥1200・(左)「印鑑入れ」¥5000



(4)有機温州みかんとオーガニックシュガーで作られた一品。ほどよい甘さが魅力で、しっかりとみかんの味が感じられる。パンはもちろん、アイスクリームにのせてもおいしい。

「オーガニックみかんジャム」¥810



(1)のりの最高級品として知られる「佐賀のり」。こちらは有明海で収穫した一番摘みののりを使用。やわらかな口溶けとりの本来の味わい、そして上品な香りが格別。おつまみにも最適。

「味のり レインボー」¥594



(3)戦後の混乱を癒すために誕生した郷土玩具。干支や県のシンボルをモチーフに、成形から絵付けまですべて手作業。土鈴の素朴な音色が魔除けや開運アイテムとして親しまれている。

(右)「祐徳稲荷 稲荷駒」(大) ¥3850・(左)「むつごろう鈴」¥1760



鹿島市イメージキャラクター

かし丸くんの活動報告

鹿島市の観光スポットやグルメなどを
PRするお仕事をしている「かし丸くん」。
彼が盛り上げたイベントをご案内!



かし丸くんプロフィール

性別: 男 | 誕生日: 3月30日

大好物: みかん

おしゃれのポイント:

かぶりものは、祐徳稲荷神社の“狐”
と特産品の“みかん”を融合。着物の
模様は、市の花“桜”と肥前浜宿酒蔵
通りにある“白壁土蔵”を表現する。
また、“ガタスキー”に乗った“ムツゴ
ロウ”のボジェットがアクセント!



◀ Vリーグ開幕戦を応援!

『SAGA サンライズパーク』の総合体
育館で開催された、女子バレーボー
ルチーム・久光スプリングスのVリ
ーグ開幕戦に参加。県内のご当地キ
ャラ仲間と共にチームを応援した。

▼ 「ふたつ星4047」を歓迎

2022年9月に運行を開始した観光特
急「ふたつ星4047」。鹿島市の肥前
浜駅に停車した際に、かし丸くんは
乗客のお出迎え。特急は、金～月曜
及び祝日を中心に1日1本運行。



◀ 連携協定締結式に参加

スポーツの振興、多世代にわたる健
康づくりなどを目的とした連携協定
をバスケットボールチーム・佐賀バ
ルナーズと締結。2024年2月に開
催された締結式に市長と共に出席。



特産品まつりのお手伝い ▶

祐徳稲荷神社の秋季大祭「お火た
き」。この時に境内で開催される、鹿
島市の特産品の展示販売イベントに
毎年参加。浮立面や鹿島錦など、伝
統工芸品の魅力を発信する。



7th Anniversary KASHIMA 2024

佐賀県鹿島市市制施行70周年記念冊子

発行元

鹿島市役所 政策総務部 広報企画課

〒849-1312 佐賀県鹿島市大字納富分2643番地1

TEL：0954-63-2101

メール：kikaku@city.saga-kashima.lg.jp

2024年11月発行

制作

集英社MORE編集部

フォトグラファー 服部希代野

デザイナー 塩浦志帆

ライター 海渡理恵

編集・ライター 横溝桃子

印刷・製本

鹿島印刷株式会社

鹿島市の
ふるさと納税はこちら



鹿島市70周年記念ムービー
『カシマノヒト』はこちら



WE  KASHIMA

